

古文書を読む会学習記録

作成日 平成28年9月25日

開催日	平成28年9月22日	時 間	10:00～12:00
場 所	区役所リハーサル室	出席人数	13名
講 師	真田 雅行氏	作成者	大門 利晴
テーマ	第二学習 奥の細道⑨		
概要	<p>【天龍寺・永平寺→福井→敦賀・種の浜→大垣】</p> <p><天龍寺・永平寺></p> <p>古い縁のある天龍寺の長老を訪ねた。また金沢の北枝というものが結局ここまでついてきた。別れに際し、「物書きて扇引きさくなごりかな」と詠んだ。</p> <p>五十町ほど山に入って永平寺を拝した。道元禪師が都を離れてかくも山の中に創建したのも尊いいわれがあったのだ。</p> <p><福井></p> <p>福井には10年ばかり前江戸に私を訪ねてきてくれた等裁という隠者がいる。今は老いぼれているかはたま亡くなってか、人に尋ねたら、存命だという。粗末な小さい家を教えてもらった。門をたたけば妻らしき老女が出てきて主は某所に行っているということだった。等裁に会って、彼の家に二晩泊まった。そして名月を観ようと等裁に送られて敦賀に発った。</p> <p><敦賀・種の浜></p> <p>十四日夕刻敦賀に着いた。月が綺麗だ。明日の中秋もこうあればいいなという宿の主人は日本海は予想が難しいといって酒を勧めてくれた。夜、気比神社に参詣した。神社は神々しく、前の浜は白砂を敷いたように綺麗だ。その昔遊行上人が自ら砂を運んで整備したという。「月清し遊行の持てる砂の上」</p> <p>翌十五日宿の主人がいう通り雨が降った。そこで…名月や北国日和定めなき…翌十六日晴れたので西行歌にあるますおの小貝を採ろうと種の浜に船を走らせたが、追い風に乗りすぐに着いた。そこには漁師の家わずかと侘しい法華寺があり、そこで茶を飲み、酒を温めて飲んだ。夕暮れの寂しさに感激して</p> <p>「寂しさや須磨に勝ちたる浜の秋」「波の間や小貝にまじる萩の塵」と詠んだ。この日のことを等裁に書かせて寺に残した。</p> <p><大垣></p> <p>路通がこの浜まで迎えに来て、美濃の国まで伴にしてくれた。馬に乗り大垣に入った。伊勢から来た曾良等之と如行の家に集まった。親しい人々が日夜訪れて生き返ったものに会うかの如く喜んでくれた。旅の憂さの残るまま九月六日伊勢の遷宮を観ようと船に乗った。「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」</p> <p><跋></p> <p>略</p>		
予定	平成28年10月13日 10:00～12:00 於：区役所リハーサル室 第一学習 赤井村 石井家文書 ⑨		